学校だより

伸びゆく子

令和５年　８　月　２８　日
横浜市立中沢小学校
８・９　月　　号

一つひとつの体験が　一人ひとりをかたちづくる

学校長　川又　美貴子

今年は厳しい暑さが続き、吹き出る汗と格闘しながらも、コロナの流行下ではできなかった旅行や外出を楽しんだ夏休みとなったのではないでしょうか。中沢小の地域でも、7月15日（土）、16日（日）には清水ヶ丘自治会の盆踊り、7月 22 日（土）にはニ俣川ニュータウン連合自治会の夏祭りが開催されました。どちらも４年ぶりの開催となり、地域の方々が過去の記憶をたどりながら熱心に準備してくださいました。当日は多くの子どもたちが参加し、とても楽しそうでした。お祭りという地域行事を、皆が心待ちにしていたことがとてもよく伝わってきました。

この夏は天候に恵まれたこともあり、海や川のレジャーを楽しんだご家庭も多かったことと思います。そんな中、小学生が救助に力を発揮したというニュースを見ました。「山形の海水浴場で小学5年生女児が10歳の女児を救助」、「大分で8歳男児が、潮に流された母の救助を要請」などです。もちろん子どもですから、自分の安全を一番大切にしてほしいことは間違いありません。山形の5年生は、水泳は習い始めたばかりで、浮き輪に、足ひれをつけての救助活動だったそうです。また大分の事故は、母親のスマートフォンで連絡をしたということなので、泳いで助けたのとはまた違います。この二つのニュースを聞いて、「どうにかしなければ」という場面に出会ったときに、自分にできることを考え、行動に移せたことが本当に素晴らしいと思いました。

夏休み中には、今年も旭区ジュニアボランティアの活動が始まり、中沢小からも5、6年生13名が参加しています。8月10日（木）にはライトセンターの見学、17日（木）には連合町内会館で行われている「赤ちゃんサロン」に参加し、お手伝い等を体験しました。 目の不自由な方や小さな赤ちゃんとお母さん、またその人たちを支える活動をしている方々と触れ合ったり、お話を聞いたりする貴重な経験ができました。

この夏、地域のお祭りの楽しさを体験したこと、誰かを手助けしたこと、またはそういう情報を見聞きしたこと、それぞれの経験一つひとつが、一人ひとりのこれからの生き方、考え方を形づくっていくのだと思います。たくさんの人とかかわっていく中で、「自分にできることは何だろう」と考え、行動していける力を、学校でも大切に育んでいきたいと思います。